

18. 庄内小学校 PTA への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 29 年（2017 年）2 月 4 日（土）9 時 30 分～

○場 所：庄内小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>この学校再編に伴って、地域の活動はどうなるのか。学校の運動場を利用している活動や、地域のお祭り等の活動については今後どうなるのか。</p>	<p>まず学校跡地をどうしていくかという点につきましては、資料のとおり、地域活動を優先的に考えていくことになります。ただ、学校でなくても可能な活動については、他の公共施設で活動していただくことも想定しています。活動内容によっては、今回の学校再編をきっかけに、例えば活気を出すために他の地域と合同で実施することも考えられます。地域の皆さまがどのようなことを希望されるのかをしっかりと聞きし、支援していきたいと考えています。</p>
<p>庄内小学校が、新校舎建設のため、野田小学校へ 2 年間移動するのは理解できるが、島田小学校をなぜ野田小学校へ移動させるのか。野田小学校の敷地は 3 校集まって過ごすには狭すぎるのではないか。島田小学校の子ども達は 2 回通学先が変わり、環境の変化が大きく、移動させることのメリットが感じられない。</p>	<p>島田小学校の子どもたちの移動回数が増えることについて、保護者の方からもご意見をいただいております。持ち帰って、検討をすすめなければならないと考えています。仮開校のメリットは、3つの学校を1つに合わせることによって、3校が同じタイミングで1つの学校としてスタートすることができ、新たな教育の工夫がしやすくなる、という点です。小学校3校が集まると全校児童で700人程の規模になると想定しており、この人数であれば決して大規模な学校というわけではなく、既存の校舎等を改修して活用すれば、通常の学校生活を十分に送ることができると考えています。</p>
<p>スクールバスを出せない理由は何か。予算の面で難しいのか。</p>	<p>他市のスクールバスの運用状況、豊中市内の通学距離の状況等を参考に、今回の再編後の校区での通学距離について検討した結果、スクールバスを出すほどの距離ではない、という結論に至りました。今の段階でスクールバスの運行は想定しておりませんが、まだ正式に決まったものではありません。ただ、仮開校を行った場合、庄内宝町から野田小学校敷地まで約2kmありますので、この点につきましては、検討の余地があると考えています。予算面で難しいのか、という点につきましては、そういうわけではなく、あくまで、他市や豊中市内の状況を検討した結果としての判断です。</p>
<p>学童保育についてだが、冬は 17 時でもかなり暗く、家までの距離が長いと家に着く頃に真っ暗になる。安全を見守れるように、帰りに先生がついて行く等の検討はしているのか。</p>	<p>放課後子どもクラブにつきましては、担当部署であるこども未来部とともに検討しております。今回の再編で、北校では150～170人程が放課後子どもクラブを利用することになると想定しています。これだけの数になりますと、17時の下校はパラパラと少人数で帰る、という様子にはならないと思われませんが、具体的にどういった方法で安全対策や注意喚起ができるのか、今後検討していかなければならないと考えていま</p>

	す。
小中一貫教育のデメリットは何か。	通常、小学校 5、6 年生は、学校の中心となって活動し、リーダーとしての役割を果たすことで、上級生としての自覚を持つようになり、良い成長の機会となります。それに比べると、小中一貫教育では、4-3-2 の考え方でステージ毎のリーダーの役割を果たしてもらう取り組みが多く 5, 6, 7 年生のステージでは、7 年生がリーダーの役割を担いますので、通常の 5, 6 年生と比較すると中だるみ感があると言われています。また、小中一貫教育では、小中の教職員の連携が大切ですが、施設一体型ではなく、施設分離型で小中一貫教育を推進する場合、校舎の距離が離れていることで時間的な制約や情報共有等に課題があると言われています。
小中一貫教育についてインターネットで調べてみたら、小学校は 45 分授業、中学校は 50 分授業であり、チャイムの鳴らし方等に課題がある、という指摘があった。対応としてはノーチャイムも考えられるが、今の学校の状況では難しいのではないか。	他市事例では、小学校 5 年生から 50 分授業をしている学校もあります。チャイムについても、施設一体型小中一貫校の各校ごとに、様々な取り組みがなされていますので、新しい学校では、それらを参考にしながら、より良い方法を検討していきたいと考えています。
制服についてだが、第六中学校が第十中学校に移った際はどうなるのか。制服がバラバラのまま、一つの学校になるのか。	現時点の構想案では、第六中学校、第十中学校は平成 31 年度（2019 年度）末に閉校し、新しい中学校を開校することを想定しています。その際、新入生は新しい制服を着用、2、3 年生は旧の制服を着用することも、新しい制服に切り替えることも、両方とも考えられます。制服についても、計画が固まった後、仮開校までに検討すべき事項であると考えています。
施設一体型小中一貫校では、低学年の子ども達の活動がうるさくて、中学生が定期テストの時に集中できない、ということが起こるのではないか。	校舎設計を工夫することで、対応できる部分が多いと考えています。例えば、4-3-2 のステージごとに階を変えたり、不必要に教室前の廊下を通らずに目的教室まで移動するための通路を設置したりする等、設計上の工夫により対応したいと考えています。
学校が遠くなるなら、開始時間を遅らせることは考えられるのか。	その点につきましては検討できていません。他の学校の事例も参考にしながら考えることとなりますが、もし開始時間を遅らせれば、下校時間も遅くなってしまい、新たな課題が生じる可能性があります。単に通学距離が伸びたから、開始時間を遅らせる、ということではなく、様々な観点から検討すべきと考えています。
平成 29 年度(2017 年度)の計画策定では、制服、課題の対策等、細かいところまで決めて提示するのか。	計画では、スケジュールや方向性等をお示しすることになると考えています。制服等の開校に関わる検討事項については、教職員、保護者、地域の代表者が集まり、開校準備組織を立ち上げて議論してもらうことを想定しています。皆さまのご意見を聞きながら、必要な事を決めていく仕組みをつくり、進めていきたいと考えています。

<p>具体的な校舎の設計はいつするのか。</p>	<p>今現在のスケジュールでは、平成30年度（2018年度）に基本設計を想定しています。その際にワークショップを行い、教職員、保護者、地域の方々からこんな学校を作っていきたい、こんな所を注意して欲しい、といったご意見をいただく機会を設けることが一般的な流れです。ワークショップを開催した際に出たご意見や、先程もお話しました、開校準備組織が話し合った内容については、保護者や地域の方への情報発信も大切と考えており、今の『『魅力ある学校』づくり通信』のように、積極的に情報発信していきたいと考えています。</p>
<p>子どもの見守り等PTAの仕事についてだが、3校が合わさるとPTAの活動も広がっていく。地域としては子どもの数は変わらない。現状PTAの仕事量としては限界が来ている。仕事を増やすのではなく、地域の見守りは、何らかの、対策を講じてほしい。</p>	<p>ご意見として承りました。</p>
<p>小中一貫教育は、この地域の学力向上等いろんなことをふまえて提案されたと思うが、運動場はこれ以上広くならないのか。集まることで活性化されて良いとは思いますが、クラブ活動にとっては広さの面で問題はないのか。</p>	<p>運動場の面積はある程度確保できると考えていますが、十分とまでは言えないと思っています。北校から運動部が、学校跡地となった島田小学校の運動場までランニングして移動し、そこでクラブ活動をする、ということも考えられますが、学校跡地の利活用については資産活用部、まちづくり全般については政策企画部が担当部署となり、教育委員会としても関係部署と連携して検討を進めなければならないと考えております。ご参考までに、今回の北校の今想定している運動場の面積は8,000㎡であり、今の第六中学校よりも少し広い運動場となります。</p>
<p>グラウンドが狭いという認識があるのであれば、なぜ(仮称)南部コラボセンターをこの場所に建設するのか。</p>	<p>(仮称)南部コラボセンター（以下「南部コラボ」）の建設に係る検討の中で、工事期間中、公共サービスを継続させたまま、現地建て替えができないため、新たな場所に移転させるという方向性になり、公共施設の再構築と学校再編を一体的に考えた結果、今回の第六中学校の敷地を使って建設する案に至りました。学校跡地が他にもあるのに、なぜ第六中学校の場所なのかという点については、ちょうど第六中学校の場所が名神高速道路から南、豊南、高川も含めた、豊中市の南部地域の中心付近に位置し、場所としては最適であると考えたからです。庄内出張所の敷地での建て替えはできないのかというご意見もいただいておりますが、庄内出張所の敷地では、面積が狭く、老朽化した公共施設の更新、地域の課題解決や魅力づくりにつながる機能を集約するために必要な規模の建物を建てることできないという事情があり、建て替えは難しいと考えています。南部コラボが、第六中学校の敷地に建設されれば、学校でもない、家庭でもない所での子どもの居</p>

	<p>場所にもなり得ますし、中に入る機能を充実させることで教育的効果も見込めます。例えば、教育相談の窓口が、南部コラボの中にあれば、気軽に相談できる場所になりますし、ここを拠点として、ご家庭へ出向いて行って相談を受けられるかもしれません。新しい学校と南部コラボが隣り合って建つことによって密接に連携しやすくなり、相乗効果も期待できます。</p>
<p>学校規模が小規模のままでもいいのではないか。小規模校には小規模校の良さがある。</p>	<p>今回の構想案については、今の学校の良さをわかったうえで、提案をしております。小規模校の良さはもちろんありますが、一学年に30人程しかいない場合、施策によって、二学級にしたとしても、一学級あたりの子どもの数は15人程になってしまいます。少人数指導では、これぐらいの人数で教えているわけですが、中、高学年になってきますと、多様な人間関係の中で意見を交換したり、多様な価値観に触れ合ったりすることが、人としての成長につながるため、必ずしも小規模校がいいとは言えません。現在、庄内地域で千里地域と同様の人口増加は見込めません。子ども達の事を考え、児童数が少ないこの状況を何とかしたいと考え、今回の案をお示しております。</p>
<p>あいさつロードは残るのか。封鎖するのか。</p>	<p>あいさつロードは残す方向で考えています。まだ検討段階ですが、庄内小学校の敷地の校舎から第六中学校の敷地にある運動場へ行くために、例えば、あいさつロードをまたぐために、ブリッジのようなものを設置したり、あるいは、あるタイミングだけ、あいさつロードを横断したりすることも考えられます。その際は子どもだけで横断するのではなく、大人が見守る何かしらの対策が必要と考えますが、いずれにせよ、あいさつロードは残す方向で検討しています。</p>
<p>雨の日や荷物の重さの心配があるので、スクールバスを出すか出さないかのアンケートをとってほしい。</p>	<p>ご意見として承りました。持ち帰って検討します。</p>